

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 だんらん)

事業所番号	0673000675		
法人名	株式会社 互惠		
事業所名	コミュニティママ家		
所在地	山形県鶴岡市中田字追分162-2		
自己評価作成日	平成28年10月10日	開設年月日	平成17年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの役割に沿った支援を行なえるように、利用者が主体的に行動できる環境づくりを行っている。
 残存機能の維持を目的に外出行事を多く取り入れ、利用者家族からも喜んで頂ける事業所を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)福祉工房		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見1丁目19番6号-201号		
訪問調査日	平成28年11月16日	評価結果決定日	平成29年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人での理念の見直しに合わせ、事業所としてもユニット毎に目標を設定し、支援の質の向上を目指す取り組みを行なっている。現在利用者の残存機能を活かし、利用者の自主性をもとにした支援が取り組まれている。利用者もゆったりとした生活を送っている様子が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に沿って、毎月ユニット目標をたてている。目標達成出来るようユニット会議で話し合い取り組んでいる。	法人理念「お客様にここに、家族もにここに、私たちもにここに」を基にユニット毎に目標を立て実践している。11月の目標は利用者が自主的に行動できる環境を作る(食事の準備、片づけ時に自主的な行動を促す)を目標に掲げ取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域敬老会、スポレクへ参加。保育園児の訪問や運動会への誘いを受け、景品配りのお手伝いや夏祭りや避難訓練では地区青年部、消防団から協力の声掛けもあり交流をはかっている。ユニット利用者職員が地域に出る(地区内のごみ拾い)機会もつくり理解を深めて頂けるよう努めている。	敬老会、地区の運動会、保育園児の訪問、消防団等との交流があり、町内会にも参加している。事業所として更に地域との連携を深めるための役割等を検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の受け入れを行なっている。地域包括支援センター呼びかけの情報交換会に参加し、地域住民向けに専門分野での講演依頼があれば受けるようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時に資料(入退所や通院状況)を提示しての説明を行い、出席者から意見・要望を聞くようにしている。会議後は議事録を回覧し職員が会議内容を把握出来る様にしている。改善すべき点があった場合の話し合いの場を設けてもらえないのが課題	2ヶ月に1回、民生委員、市町村、包括支援センター、利用者、家族の参加で開催して、事業所の報告、課題を議題とし、参加者のご意見を聞きサービスの質の向上に生かしている。課題によって参加者を検討しても良い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月介護相談員の訪問があり、気づいた事を報告してもらえることで改善、サービス向上に努めている。頂いた意見で、改善すべき点は改善を行い互いの意見交換もできている。	介護相談員は月1回訪問して利用者とは交流して利用者の意向や希望等を聞いている。包括支援センターの声かけで事業所間の交流をしている。又運営推進会議に参加しているので、事業所の状況等を知っているので相談しやすい関係となっている。		
		○身体拘束をしないケアの実践				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	定期的な虐待防止アンケートの実施。無断離接により、事故にあう可能性の高い方からは家族の同意を得てGPSを携帯してもらうようにしている。	定期的に3ヶ月に1回虐待防止アンケートで自己評価してユニットで話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自分や、他職員の言動で不適切と思われた時は、ヒヤリハットとして記録を行い、後日会議にて振り返り虐待につながらないように取り組んでいる。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が実際にいることと、管理者は、申請手続きをしに役所へ出向いたり、関係者と話し合いを行ったりしているようだが、職員個々の理解を深めることや、研修の機会を設けることはまだ出来ていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容の説明を行い、疑問・質問に対しては納得を得られるよう説明するようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時、意見要望を聞き ケアプラン更新時に反映させている。 介護相談員の受け入れを行なっている。 玄関に意見箱の設置をおこなっているが、場所等検討が必要な点もある。	意見箱を設置している。家族の面会時に意見や要望等を聞いている。定期的な意見の収集や検討が望まれる。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対し、会社に対する満足度調査を実施し、改善が必要と思われることに対して検討を行なうようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て支援金を支給している。 環境整備に取り組むため職員の満足度調査アンケート実施しはじめた。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交換実習において、他事業所で学ぶ機会を設けている事と、研修案内は回覧で知らせ、出来る限りの参加出来る様勤務調整につとめている。	内部研修が行われて、介護技術の向上が図られている。山形県の研修、外部研修に参加した時は伝達研修で職員に周知が望まれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護技術コンテストを行い技術向上に努めている。交換実習にて、実習生の受け入れ 実習への参加をしている。 毎年GH交流会への参加で、利用者・職員共に他事業所との交流をはかっている。	GH協議会に参加し、交換実習や事業所交流会に参加して、他の事業所と交流してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行ない、情報をまとめ 十分状況把握を行なうようにしている。新しい環境に早く慣れもらう為に積極的な関わりを持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訪問時に、近況報告や、生活状況を伝え意見や要望の聴き取りをおこなっている。 面談時に、家族ごとのニーズをケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の自宅での生活状況の聴き取りを行い、アセスメントを行なっている。必要に応じ 支援の方向性を検討し家族に説明・サービス提供をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者の現状把握(出来ている事、介助があれば出来る事、どの程度の介助が必要なのかなど)に努め、関わる職員の共通認識とし、各利用者に合わせた対応をおこなっている。食事準備や掃除は毎日職員と利用者さんが一緒におこなっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、本人と家族が楽しく会話出来る様話題提供や近況報告をおこなっている。 面会回数の少ない方もみられ、通院は基本家族様にお願ひし、事業所と家族との役割分担をおこなっている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの聴き取りで、過去の生活状況が分からない場合 家族から教えてもらい生活状況の把握に努めている。 面会の制限は設けず可能な限り、家族や馴染みの方との交流が行える様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や性格に配慮し、座席を工夫している。外出行事は皆で楽しい時間の共有が出来る様に、体調不良がなければ全員から参加してもらい関わりを深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族会に継続し残れる旨を伝え 必要な場合の情報を伝達・相談に応じたりと関わりを継続できるようにはしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	最低3ヶ月に1回ずつのモニタリングをおこなっている。毎月ユニット会議のばでも各担当職員から問題や課題を出してもらい検討・改善に取り組んでいる。	生活暦等の情報や日常生活のコミュニケーションを通じて利用者の意向や希望を把握し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談で情報収集を行い家族・担当ケアマネ、親戚の方などから聞き取りを行ない必要な情報の把握をおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子をPC入力し、24時間の状況が把握出来るようになってきている。毎月のユニット会議で、各利用者さんの現状把握ができています。主任が先頭に立ち、状態把握のための用紙を作成、各担当から提出してもらい、ユニットで摺合せ現状把握の共通認識としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当を中心に会議で検討している。困難事例については、施設長からの指導・助言をもらい取り組んでいる。	利用者の意向、希望が短期目標として明確に立案されて利用者、家族、職員にも周知されている。月1回の見直しが見られる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン入力、ヒヤリハットの記録を行い情報共有を行なっている。重要事項は日報への記載している。ユニット会議、ヒヤリハット会議で検討している。		
		○地域資源との協働			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院・理髪店へ行き、散髪をおこなったり、近くのドラッグストア・ホームセンターに買い物に行っている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の往診がある。希望があれば、今までのかかりつけ医に継続して受診できる。体調不良時など電話連絡・報告で対応方法の指示貰う事ができている。	協力医による月1回の往診があり、必要に応じて電話による指示を受けている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に報告し、必要な処置を行ってもらっている。アドバイスをもらいながら適切な対応ができている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医の支援を受けながら、病院との連携がとれている。入院時には生活状況を文書にて提供。面会に行った際は、看護師に状態の確認をおこなっている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期を迎えた場合 施設サービスの限界を示した上で主治医からの説明をうけてもらっている。方針決定後サービス計画書を作成し、同意を頂きチーム支援に取り組んでいる。	入所時には重度化した時の説明と同意を得ている。重度化した場合は協力医、看護師、家族との話し合いを段階的に行う方針である。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に迅速な対応が出来る様マニュアルを作成準備している。 年に数回 心肺蘇生の講習会を実施。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2階の訓練では、消防署・地区消防団立ち合いで実施。消防署の方、消防団からの指導をうけている。 ユニットでは、地震に備えての初動訓練も行っている。	年2回予定されており、8月(日中想定)は消防署参加、地区の消防団も参加している。年度内に更に1回実施予定である。	実際に災害に遭遇した時のためにも、毎月の何らかの避難訓練を実施し、利用者、職員がスムーズに避難出来る様訓練していくことが望まれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の中でプライバシーに配慮した声掛けを行なっている。個人情報に記載されているものは、利用者さんの目が届かない所に保管している。個人情報を取り扱うものを他の利用者さんがいる場所等で行なう現状になっている。	プライバシーに関する話し合いが行なわれ、日常の声掛けなどに注意を払い、不適切な言動が無いように心がけられている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声の大きさや表情を観察しながらいわしている。自主的に行動が出来る様に配慮工夫をしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴等、本人のペースに合わせ行なっている。 外出や買い物は、行き先の希望を取り入れている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に 理・美容院へ送迎を行なっている。洗面所に、櫛や髭剃りを置き好きな時に使用できるようにしている。女性利用者の居室に鏡台の設置もおこなっている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片づけまで、職員・利用者が協力しおこなっている。 楽しく食事出来る様 話題提供をおこなっている。	利用者に何かの形で、参加協力してもらえるように声がけをしている。11月の目標にしていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの状態に合わせ刻み。ミキサーで提供している。水分や食事量の不足がみられる時は、原因を探りながら記録表にて摂取量の把握を行っている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、清潔保持が来ている。自分で出来る部分はしてもらい、出来ない部分・不十分な部分の介助をおこなっている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁が増えてきている利用者に対し、安易にパットやオムツの使用を行わず、排泄パターンの把握に努め失禁を減らす努力をしている。	排泄チェックを利用してトイレでの排泄を基本としている。リハパン、パット利用少なく失禁を減らす努力をしている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の健康観察時に排便確認を行っているが、覚えていない方が殆んどで、職員が目で見確認するよう努力している。下剤を使用せず、乳製品や漢方茶で排便を促している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきでの入浴実施。入浴剤使用。拒否が強い場合は強制しない。一人ひとりの好みに合わせ湯温や時間を変えている。洗髪が嫌な方に対してはハットを使用し、安全に考慮し滑り止めマットもしようしている。隣接する有料老人ホームの大風呂も楽しめるように支援している。	週3回を基本にしている、拒否する人は本人の意思を尊重して次回にしている。バスクリーンの使用、又有料老人ホームの大型のお風呂を使用して楽しんでいる。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて、温・湿度の設定、寝具の準備をしている。夜間安眠出来る様、日中は活動的に生活ができるように支援している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更や追加があった場合は、日報に記録し情報共有をおこなっている。薬情報はいつでもすぐに確認できるようにファイルしてある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を考慮しながら、現在本人が出来る事、出来ない事を把握し生活の中に楽しみを持つことが出来るように配慮している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出時は様々な情報提供を行い希望の行き先を聞き、行き先を決定している。予定になくても、天気がよく利用者からの希望があれば急遽出かけることもある。月に数回の外出をとりいれている。	日常の散歩や通院、美容院等に決まった人が外出している。事業所として、もみじ狩り、ヤバスハイクを行い、利用者は楽しみにしている。寿司の出前等の楽しみもある。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の心配がある方に対しては、本人が安心出来るような返答をしている。職員が統一した返答を行なう事で安心できている。手元にお金を所持(少額)しているかたも数名。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が入った際本人に代わり会話出来るようにもしている。毎年、年賀はがきを出したり受け取っている。作成時、写真入りの年賀はがきを作成し、書ける部分は本人から書いていただき、やり取りをおこなっている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内にいても季節を感じる事が出来る様トイレ・洗面所・リビングに花をかざっている。温・湿度計を設置し快適に過ごせるよう管理している。	自宅にいるような環境である。季節の花が飾られて月山が目の前にみられて、ベランダも日あたりがよく、日光欲には良い環境となっている。食事中は音楽を流してゆっくりできる環境である。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、性格や相性に配慮し座席を決めている。リビングと居室はいつでも自由に行き来する事が出来る。共通の話題で会話を楽しんでいる。テーブルがある食堂スペース、カーペットで横になれるスペースやソファを置くことで気が合う利用者同士過ごす事が出来るよう工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、本人が大切にしている物や馴染みのある物の持参をお願いし持ち込んで頂き、居室に飾ったりしている。	各自の部屋は家族の協力でなじみの物が飾られて安心して生活できるように工夫がされている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手摺りの設置。 出来る事を自主的に行動に移せる様張り紙をしたり、お手伝いに対し感謝や労いを表す為に写真の掲示もおこなっている。	/	/